

<b>経営学基礎①②</b>		<b>講義</b>	<b>准教授 八木 孝幸</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 柔道整復師コースの必修科目 救急救命士コースの必修科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>11120105 12120103 13120102</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

英語で「経営（管理）する」という単語（動詞）である“manage”の本来の意味は、「（馬などを）手で扱う」すなわち「操る」というものであった。それが次第に、「（人を）巧みに扱う」という意味でも用いられるようになり、今では「事業などを所有者に代わって経営（管理）する」という意味でも用いられるようになった。

企業はよく船に例えられる。目まぐるしく変化する経営環境を海になぞらえ、その海で船を操り航海することが企業にとっての経営にあたるのである。船の規模が大きくなればなるほど、航海の際に船の位置の測定や海図を正確に読み取ることのできる航海士の存在が重要となる。同様に、企業でも経営を行うに際して様々な経営に関する知識を有する優秀な人材が必要となるのである。

この『経営学基礎』という講義は、広範な領域を有する「経営学」について、初学者を対象に体系的に分かり易く講義を行ってほしいという時間である。なお、講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずる。また、本講義の履修に関して特に制限はない。

### 2. 授業の進め方

テキストは用いず、毎回板書をしながら講義を実施する予定である。

### 3. 授業計画

1. 会社とは	9. 企業の経営組織③（トップの役割）
2. 企業と経営①（経営資源）	10. 企業の人的資源管理①（5つのソフトなS）
3. 企業と経営②（オープン・システム）	11. 企業の人的資源管理②（欲求5段階説）
4. 企業の戦略①（成長と競争）	12. 企業の人的資源管理③（欲求体系の2要因説）
5. 企業の戦略②（全体と機能）	13. 企業の人的資源管理④（戦略ミドルの育成）
6. 企業の戦略③（ライフサイクル）	14. 企業の人的資源管理⑤（適材適所と人材形成）
7. 企業の経営組織①（ラインとスタッフ）	15. 企業統治とは
8. 企業の経営組織②（マトリックス組織）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで2時間以上の予習をしておくことが望ましい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（あるいはレポート提出）の後、解答例等を掲示板に掲示する。

### 6. 授業における学修の到達目標

専門科目履修の際に、理解を促進するだけの経営学に関する基本的な知識修得を目標としている。

### 7. 成績評価の方法・基準

課題（定期試験やレポート等）の結果（50%）及び授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。ただし、課題（定期試験やレポート等）の結果が授業への取り組み姿勢の評価のいずれかが59点以下になった場合は、不可とする。

### 8. テキスト・参考文献

〈テキスト〉

テキストは用いず，必要に応じて適宜資料を配布する。

〈参考文献〉

- (1) 高梨智弘『ビジュアル・マネジメントの基本』日本経済新聞出版社，1995年。
- (2) 高村寿一『ベーシック経営入門〈第3版〉』日本経済新聞出版社，2007年。
- (3) 武藤泰明『ビジュアル・経営の基本』日本経済新聞出版社，1994年。

#### **9. 受講上の留意事項**

座席表作成の都合上，履修学生は初回より必ず出席のこと。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。